

## 裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、語、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和7年5月19日(月)

# みんなの居場所

## 「我慢する力」を身に付ける

先日、光の森にある本屋さんに立ち寄った時のお話。

久しぶりの懐かしい光景を見ました。あるお母さまやさんから子どもの大きな泣き声が聞こえてきます。何だかと思いついて近づいてみると、お母さまをねだる男の子が、陳列棚の前に座り込んで泣いているのでした。私にも経験があります。しかも何となく覚えていたんです。確か幼稚園か1年生位でして、うか？、そうすればお母さんが成功すると思っていたように、無理やり受け付けてくれたチャレンジしていたような気がします。

さて、こんなことを思う年までやっていらした。自分の主張が通らない、思い通りにいかないという時、泣いちゃう子がいた。泣くだけならいいのですが、暴力に訴える等言語暴力です。そして、それが繰り返されると、周りの仲間が避けようとする。こうしてその子は孤立してしまふ…。中学校で同じことをやっていると、大事なものを失うことになる兼ねます。

法治国家である日本において、子どもたちの反社会的非社会的行動を法に照らして考えてみる。合法となる行動はほぼゼロです。もっと簡単に言えば、不法行為、犯罪です。思い通りにならないから暴力に訴える、欲しいから物を盗む、嘘をつく、すべてやってはいけない事ばかりです。大人の世界でタメなことは子どもでも世界でもタメなものです。是非です。

社会はルールによって安定しています。そのルールから逸脱することが犯罪となる訳ですね。我慢すること、物事に対する耐性を身に付けることは、非常に大切なことです。これを学ぶことができるシステムが「学校教育」であり、掛け替えのない場所なのです。しっかりと学んでほしいものです。

## 最近の社会④

さて第4弾です。

### ◎自分の考えは絶対？

「我が道を行く」なかなか格好良く見える。聞こえるものですが、これで他人に迷惑を掛けるようなことがあつてはなりません。自分の考えを、絶対として通していくのは単なる、わがままです。我々の教師という職業は、この点についてはいつも気を付けておかなければなりません。私はできる限り多くの人に意見を聞くように努力しているところです。自分の理想を追い求めるのは大変良いことです。しかし理想しか見えなくなってしまうのはためです。また、「うかに限って…」「という考えは極力避けていきたいものです。学校で何かあった時に、子どもを守ってあげられるのは最終的に担任や保護者の皆様ですが、状況を見て、自分で乗り越えさせることも必要であると感じています。

### ◎先輩の意見が素直に聞けない

まず「はい、おわりに」です。これは私が学級担任をさせて頂くとき、必ず指示していた約束事です。私は学級の頃、部活では監督や先輩の言うことは絶対でした。それが良いことであれ悪いことであれ、必ず返事でした。最近、目上の人達に対する敬愛の念が無いように感じます。特に若者はそれで、その中でも教師と児童生徒、親子、等々がそうです。私は縦の関係を重んずる環境で育ったので、「はい」という返事に抵抗は無いのですが、大人であれば何か言われた後に「でもですね…」子どもであれば「え〜〜〜」といったのが最近の返事でしょうかね。私だけでは無いはずなんです。まず「はい」を実践し、気持ちのよい日常生活を送りたいものです。

## シリーズ「自分を語る」#11

私が通った小学校は2つあります。転校ではなく、学校のマンモス化に伴い、新設校に通ったことになったのです。私は小学3年生まで、熊本市立城北小学校に通いました。4年生からは熊本市立麻生田小学校に通い始めました。と言っても、麻生田小学校校舎はまだ建設中で、自宅からすぐ見えるところに麻生田小学校が建てられているのに、4年生の1年間には城北小学校に間借りするからで、せつと歩いて登校しました。という訳で、私は1年生から4年生まで、往復3、4kmの道のりを歩き通しました。府本小学校の子ども達の中にはそれ以上の距離を歩いている子がいますね。素晴らしいことです。登下校によって子どもたちの心身は結構鍛えられます。体調不良の時など、送迎を自家用車で送迎することもたまにはあります。ただ送迎が日常になると、子どもたちはそれが当たり前のこととして認識を失ってしまうので注意が必要です。実は私の父は自動車の免許はもっているもののペーパードライバーで、専らホンダ・スーパー・カブ(900cc)にしか乗りませんでした。私たちが兄弟の送り迎えは「一切なく」といって、歩きで、自歩で、私達兄弟は通った当時の交通手段でした。当時、親は送迎の迎えをしてもう一つは何が悪いことをしているような、そんな雰囲気もありました。

さて、大好きだった3年生の時の担任の先生は城北小学校に残ることになり、更には仲の良かった及々とも別れ、クラス替えもあり、色々なことが重なって、4年生の時初めて「学校に行きたくない」という気持ちになりました。当然のことながら、私の両親がそんなことを許すはずもなく、高熱があっても「差し当たり行けえ。」が、両親の口癖でしたから…。そんな気持ちで学校に行く、やはり色々なトラブルがあるものです。担任の先生でもあまのうまいのか、4年生の1、2学期は、小学校生活の中でも最も嫌な時間だったかも知れません。人ごうまや、何を覚え始めた時期でもありました。私達のよう、いわゆる「悪口」に対応する時、まさに「認め褒め励ます」ことが必要になってきます。褒められる経験が少なかった私にとって、たまに褒められる、よい、この先生のために頑張ろう!! っていう気になります。厳しくても、子どもの言い分を聞いてくれる、タメなものはタメ、を徹底される先生には安心感がありました。

3学期からは新校舎で生活することになりました。あの頃楽しかったのは運動場の整備です。何もなかった場所に学校が出現したので、運動場もへたくすでもありません。体育の時間はサーキットトレーニングが運動場の整備でした。今は重機であつてこの間に整備されますが、何故か当時は我々の手で整備していきました。リヤカーや一輪車を扱ったのがとても楽しかったの思い出です。その甲斐あってか、5年生になったからは通常通りの体育ができるようになります。また、クラブ等もあつて新しい友だちができて担任の先生も替わり、楽しい2年間が始まるわけですね。(つづ)